

温故知新

(古代文明のおこり)

米作りの発展→→米をたくわえる→→米をめぐる戦い

祭りや農作業の指図をする
首長(かしら)が指導



地位を利用して富をたくわえる
貧富の差

有力なむらがまわりのむらを征服して「()」が各地にできる

漢(中国)の時代

日本(「()」)には、100あまりの国があった。
一部の国は、()にあった中国の役所に使いを送った。

1世紀半ば 北九州にある()の()が漢の都に使いを送る



皇帝から()を授かる

3世紀初め 漢が滅びる→魏・呉・蜀の三国が争う。

倭国では、女王()が治める()
を中心に、30ほどの国が()に使いを送る。

(「魏志」倭人伝より)

No. 11

3世紀末 近畿地方～瀬戸内海沿岸 ()がつくられる
[円墳・方墳・()]

↑
特に多い

・強大な地域の支配者をほうむるため

大和・河内の地域 地域の豪族たちが連合して強力な政権
()

古墳

表面には、()がしかれた
頂上には、人・家・動物などの()がならべられた
内部には、死者と共に、()・()・宝剣 [祭りの道具]
後に ↓
()・()・()
など

魏志倭人伝(抜粋、わかりやすく書き改めてある)

倭人は帯方郡の東南の大海の中で、山の多い島に国や村をつくっている。もとは百余国に分かれ、漢の時代に貢物を捧げて天子にお目通りする者があった。現在、使節が行き来しているのは30国である。帯方郡から倭にゆくには、海岸に沿って航行し、韓国をへて…狗邪韓国…对馬国…一支国…末盧国…伊都国…奴国…不弥国…投馬国とめぐったのち、南の邪馬台国に到着する。そこは女王が都をおいているところである。……………

邪馬台国は、もと男子を王として、70～80年間支配していたが、やがて倭国が乱れて何年もの間、互いに攻めあうことが続いた。そこで諸国の王たちは合意して一人の女子を立てて王とし、卑弥呼と呼んだ。女王は呪術じゅうじゅつをよくして人々を従えた。年はかなりとっていたが、夫を持たず、弟がいて政治を助けた。卑弥呼が王となつてからのち、彼女に面接できる者は少なく、侍女1000人に奉仕させていた。ただ一人の男子が食事の世話をし、女王のことは伝え、居室に出入りしていた。宮室・物見台・とりでが厳重に設けられ、いつも兵士がいて兵器を持って守っている。……景初3(239)年6月に倭の女王は大夫の難升米らを帯方郡に派遣し、魏の天子にお目通りをして貢物をささげたいと願った。帯方郡の長官劉夏は、役人をつけて倭の一行を魏の都洛陽まで送らせた。その年12月魏の明帝は詔書をだして倭の女王に次のように告げた。「親魏倭王の卑弥呼に詔を下す。……今、お前を親魏倭王とし、金印紫綬を許し、封をして帯方郡の長官にことづけて授けることとする……」 卑弥呼が死んだとき、大きな墓をつくった。直径は百余歩もあり、女王に殉死した奴婢は百余人であった。その後、男子の王が立ったが、国中の人は服従せず、互いに殺し合つて、千余人が死んだ。そこで、卑弥呼の一族で、壱与という13歳の少女を王に立てると、国中はようやくしずまった。